

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号： 1 事業名：ユニバーサルデザイン普及促進事業費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小澤アドバイザー	<p>かなり認知度は上がってきていると思うが、若い人はいいのだけれど、年齢が高い人にはまだまだという感じを受ける。</p> <p>出張講座の開催状況を見ると、幅広い都道府県で実施されていると感じる。更にユニバーサルデザインの認知度を高めるためには小中高の学習の場を利用して、ポスターなどを作って広めて行くという考え方もある。</p> <p>一般的にこれがユニバーサルデザインだ、とはわからない。言われて初めて気づく。甲府駅南口の表彰も初めて知ったが、一般の人にはわかりにくい。ユニバーサルデザインが表彰されることによって若い人、関わってない人にもこういった発想があると知ってもらう必要がある。こうやってデザインを考えてものづくりをやったり、進めていただいているのがわかってありがたい。障害のある人にかかわらず高齢者は特に多いので強調してもらいたい。</p>		

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小澤アドバイザー	自主点検シートの見直しの必要正の部分、障害のある人の意見を採り入れて、だけでなく、多様な方々も文章に入れないと障害者だけに捕らわれているような感じも受ける。	政策主幹 渡辺和彦	「障害者の意見」の部分は、障害者のみに限らず、県の施設は多様な利用者に配慮した設計にしているので修正をする。
村上アドバイザー	<p>認知度は高まってきていると言うことだが、追加資料のユニバーサルデザイン2020行動計画によると、パラリンピック大会を契機として障害のある方、ない方ともに共生社会、心のバリアフリーを柱としている。一人一人の意識の改革が重要。いわゆるバリアフリーのソフト面の充実が今後重要。蕪崎工業高校の表彰もそうだが、そういった方面を充実していったら今後の世の中の一因として、安心すると言うか、ありがたいと思う。今のセミナーはどちらかという障害のある方に対応していくという意味合いを感じる。県としては、今後、ともに実現していくという考え方やセミナーを考えてはいるのか。</p> <p>各部署の取組の中で、フラット歩道の整備とか大きな予算があるが、何カ年の計画や、進捗度はあるのか。</p>	<p>政策主幹 渡辺和彦</p> <p>政策主幹 渡辺和彦</p>	<p>このユニバーサルデザインを始めた平成19年頃はどちらかというとハードを主体とした考え方であり、これまでハード面に偏った形になっているというのが現状。国の資料にもあるように、ユニバーサルデザインという考え方からユニバーサル社会といった言い方に変ってきている。基本的には心のバリアフリー、ハードばかりでなくソフトも含め、過ごしやすい方向に変ってきているのではないかと考えている。新たな総合計画の中でも、共生社会を取り入れているので、その中でも検討していく。</p> <p>各部署で数値目標がある。何年で何キロのフラット化、など。まだ県内の歩道では段差が多くある。財政負担も大きい。甲府駅前など観光地は歩道の設置も含めている。段差がある歩道は狭いことが多く、車椅子やベビーカーだと幅がなくてすれ違うことができない。場所に応じて歩道の整備を含めながらフラット化を進めている。事業課独自の数値目標があり、確実に進めているところ。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>セミナーについて、25年から委託事業で公開経営指導協会に委託しているが、どのような団体か。</p> <p>公的ではないのか。</p> <p>山梨ではなく、東京か。</p> <p>企画、講師、人集めもするといった、丸投げに近い状態か。</p> <p>平成20年3月の指針が出たときは相当、バリアフリーやユニバーサルなデザインなどボリュームがあったが、今はトーンダウンしているようだ。それを各部局に依頼してバリアフリーに変わった、というのが実態。国のオリンピック・パラリンピック大会を機に2020行動計画を出しているが、県も新たな総合計画の中でこれをどういう位置付けにするのか。ここで再度ユニバーサルデザインになるのか、ユニバーサル社会をどうするか、と考える時期に来ているということでもいいか。</p> <p>やるならきちんとやる、やらないという選択肢はないと思うが。国を見ると、1つは心のバリアフリー、学校教育に取り入れること、企業の環境が県の検討課題になる。</p>	課長補佐 進藤聡	<p>公開経営指導協会は基本的に経営関係の指導をしているところ。その中で、ユニバーサルデザイン等も民間企業に対し指導も行う。</p> <p>民間で、東京にある。</p> <p>テーマに関しては相談して委託している。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>観光地のユニバーサルデザインについて、誰にでもやさしい、使いやすいというのは山梨県としてはスポットを当てた方がいいと思うが、どうか。</p> <p>公的なサインは役所だが、宗教などはもちろん民間の対応である。この民間に対する啓蒙活動の中で目玉になるのがユニバーサルの表彰だと思うが、具体的に応募はどのように集めて公表しているのか。</p> <p>これからどのように県の総合計画にうたわれるか、だが、一番効果があるのはセミナーや表彰制度だと思う。心のバリアフリーの教育活動を表彰するのが普及の成果が上がりやすいのではないか。</p> <p>国の認知度ではなく、県のモニターの数値を目標にしてほしい。</p>	<p>政策主幹 渡辺和彦</p> <p>政策主幹 渡辺和彦</p> <p>課長補佐 進藤聡</p>	<p>観光地のバリアフリーとなると、ピクトグラムなど、民間施設のことになり、県としては、民間施設に働きかけをしていくことが割合として高い。県ができることは当然、県で行うが、観光地となると民間施設になるので担当部局が必要な働きかけをしていくこと、あるいは一緒に進めていくことになる。今は、ユニバーサルデザイン、ユニバーサル社会に配慮しなければ民間も批判を受けやすい。基本、民間施設もそういったものに配慮している。</p> <p>各種団体、金融機関など幅広く募集している。応募の数があまりよくないこともあり、声がけすることもある。応募いただいたものは学識経験者を含めた選考委員会にかける。表彰については報道に投げ込みをしたり、県のホームページにも載せている。</p> <p>基本的に県のモニター数値を目標としている。モニター調査は毎年できないので、やっていない年は内閣府の数値を補完しているところ。直近は平成28年だが、やっていない年は内閣府で補完している。</p>

	<p>平成30年は調査をやっていない。定期的にやって、2年間同じ目標か、数値を少し上げてもいい。県の活動から県の結果、でないと話が少し違うのではないかと思う。</p> <p>前に、テレビで県内のユニバーサルデザインに対応した宿泊施設を見たが、宿泊施設にも指導はするのか。</p>	課長補佐 進藤聡	<p>表彰にもあるレークホテルではないかと思う。レークホテルさんに特化してということではなく、毎年富士吉田会場に来ていただいている状況。</p>
--	---	----------	--